



10月3日(水) 教育について語ろう

い、企業誘致を進めていきます。地元の若い人の雇用につながるのであれば、そのために水を引くことは先行投資としてやるべきだと考えます。

問 いじめ問題については、養護教諭は児童生徒も話しやすいと思うので、保健室の活用に取り組みしてほしい。各校共通理解の中で取り組んでほしい。

町長 学校でのいじめや引きこもり、友人とのトラブルは、学校だけでなく、幼稚園や保育園と連携を図り、保護者の対応も必要となります。横の連携を図り早期対応に努めていきます。

教育長 保健室、養護教諭の存在が大きいのは確かです。各校ではいじめが発生すると早急に対策委員会を立ち上げ対応しています。町では心の教室相談員として児童生徒の心のフォローをする相談員を2校に1人配置し、また県のスクールカウンセラーが拠点校に常駐しており、きめ細やかな対応に努めています。

問 町立図書館が1カ所しかない中で、児童生徒にとって学校の図書室はとても大切だと思うが、司書教諭がない。大人が

いない図書室はただの本の倉庫と同じで、児童生徒を本の世界にいざなう大人が必要だと思う。週に何回かでも良いので司書を各校に配置する予算措置をお願いしたい。学校図書予算が配分されているが、教員が業務の中で児童生徒が必要とする図書を広範囲の中で選ぶのは大変だと思う。学校図書の予算を有効に活用するためにも、司書の役割を、ボランティアを活用しながらでも良いと思うので、進めてほしい。

町長 将来活躍していくには読書はとても大切です。ボランティアの協力は非常にありがたく、図書室の充実においてもぜひ活躍いただきたいと思えます。

教育長 司書の配置については、コミュニティスクールの一環として取り組みないか模索しているところですが、ボランティアにご協力いただく方向で検討を進めます。

副町長 学校図書の整備は課題として受け止めます。各公民館にも図書館があるが、公民館主事もどういう図書を公民館に置くか、勉強が必要だと感じています。いくつになっても本から得られるものは大きいので、児童生徒だけでなく地域の図書の充実についても取り組みます。

10月9日(火) 地域生活について語ろう



問 地域おこし協力隊の活動状況はどうなっているのか。事務所がないとも聞いている。拠点がないと、繋がりたいときにどう連絡とればよいのか分からない。地域との連絡、協力体制を分けるようにしてほしい。

ふるさと定住課長 現在5名が活動しており、拠点は役場として、それぞれが活動しやすい形をとっています。

副町長 以前には旧ムロイ金物店を拠点にしていたこともあるが、いまはそういう場所を設けていない状況です。今後は空き家の活用等も含めて活動拠点を定めることを検討していきます。

問 4回のまちづくり懇談会を通して、町民の関心が低いことが伺える。町議会の出席も少なく感じる。町民に関心を持ってもらえる工夫をお願いしたい。

町長 今年度は町民に来てもらう形となり反省しています。次回は地域の公民館などに出向く考えで進めます。町議会からは分野に携わる議員に来ていただいたと理解しています。職員一丸となり、町民が行政に関心を持つてもらえるようより一層努力してまいります。

建設課長 県道28号から教育相談室に向かう道は幅員が4mで、拡幅改良箇所として計画している箇所です。地元説明も終わり、用地購入ができれば、計画としては来年度には着工したい考えです。

▼問合せ 総務課広報広聴係
☎6901

掲載したのは一部ですが、いただいたすべての貴重なご意見・ご提案を今後のまちづくりに生かしていきます。ご協力ありがとうございました。